国立国会図書館　タイトル『たまもの前物語 2巻』 請求記号 858-76
ガラス使用

858-76

たまもの前物語　上下　合本　一冊

『書写享徳二年刊『玉藻草子』を改題せーもの、内容は同じなり

水谷氏が仮名草子に位置付けて掲載とあり

たまもの前物語上

鳥羽院の御代、紀伊の国に藤原の[illegible]と申す人ありけり。一人の女子出来たりけるを、女人第一の宝と思ひ、花のかんばせ、柳の眉、やさしきこと、ならびなきやうにぞ、ものしける。

国立国会図書館　タイトル『たまもの前物語 2巻』 請求記号 858-76
ガラス使用

たまもの前物語上

鳥羽院御代の事

鳥羽院久寿元年　鳥羽院御代の事

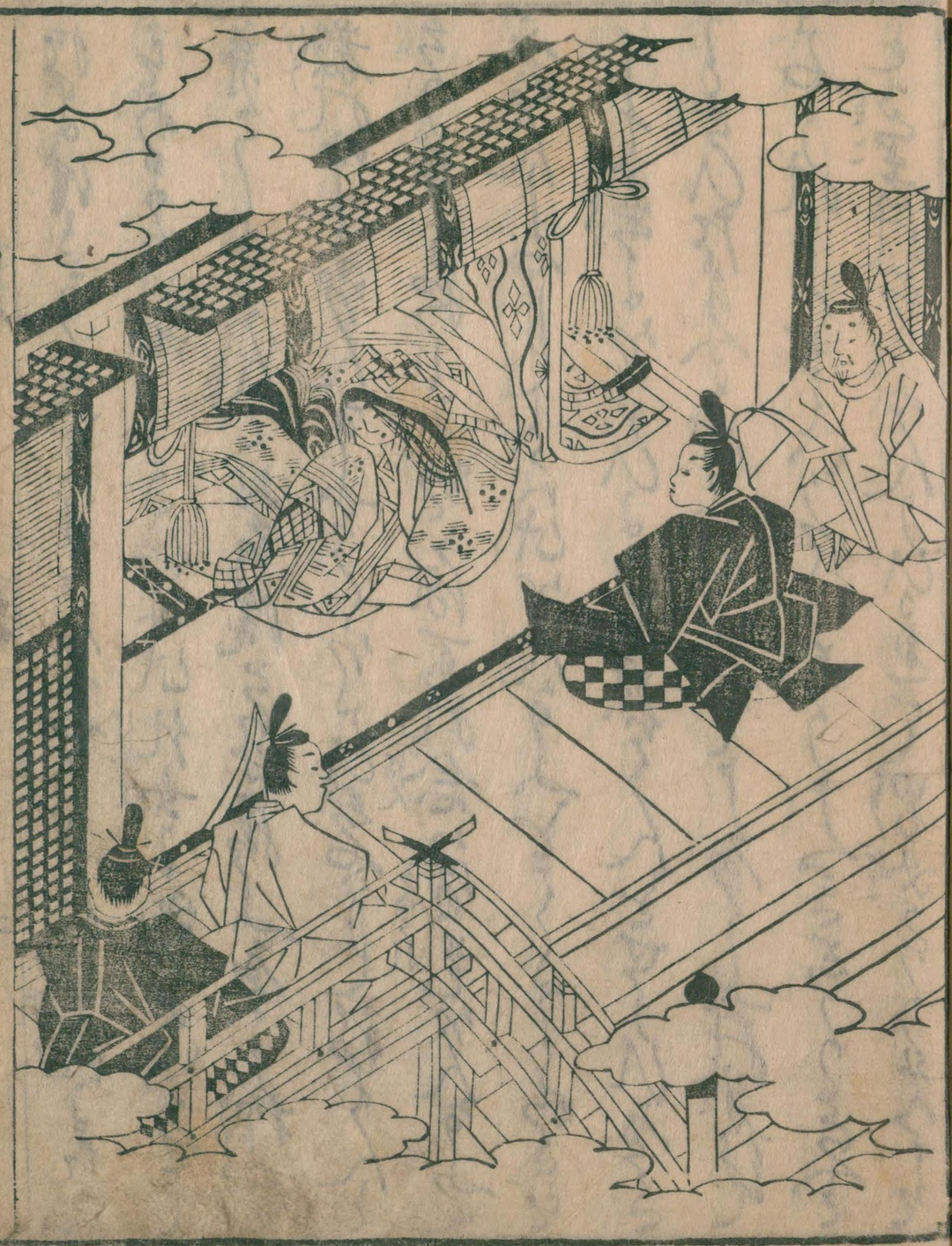
人皇第一の帝

人皇第一の帝

女御

女御

国立国会図書館　タイトル『たまもの前物語 2巻』 請求記号 858-76
ガラス使用



たうりゃれよりそうひたりて。後白河院の御門をくめ
られてゆてうあひかぐうあ。ぐ。ぐん中ゆ入てる。
こうもい風一巻ものすり一巻申しそせまた
れ。とのそうぐんへぐるんれさうとうなすへきう
るもやうもるあいうかとうれうひ。常盤御前
乃滝と沢とうるる。天人れきてんとはぐ。の
ようひぐうそみうるふかうきまくるひつよ
ようぐ。思ふうちもんゆうやるあやとふ
ひうるうかぐ。ぐうとゆくふぐとうるしん
らげ。ぐてんへけてんゆ法世法ぐ。ゆうよけうてう

はるばるきたるこゝろざしをあはれとおぼしめしたまはゞ化女よ物をいはせ給へ
ゆゑこゝろめさんと思ひ院こゝろ安堂殿の御中ゆゑ
ゆゑ中ゆゑ
こゝろ中はいかにせんとおもひ給へ念ハ皆光りなんなり
して歩るひよりもゆゑ
とこひたまへ化女ゝ
さやうにいてうもこゝろ
もるまこゝろ

ゝ中は化性ハ一旅のうかりけるこゝろ
ふかひて八男女ハ不同ゆゑ
ゆゑ
氷ゝ
ゝ
ゝ

りんをもて風あらくふきて法燈をもてとひさとく
くゆるとなれども ぜんちの色色かがやく時
ぼんをもて氷をけして法界みな
ぜんぜんの二つく而一不異物なく世間の道
俗とこれをなぶたひしてもろ
ものとものしたまへるたまへるこ
うとちとしるくわうとそれぜんぜんの
流こりひとつ一ちんをまもるものひまなも
仏さまをひとしてやいのんと思ふ
とおりへんりんをもてあらく

ふまうはたこれのりんをもてよまうはたこれ
とりひとしてぜんぜんのぜんられ物を。長和
乃屋と見ちをふ物をとぜーとをやうせけーて
へて志物んよねうんれみちとあるいてたちまち
よおもせれ如たいとをんとしぜーたちなくたくん
ともちさんのまへぜ法佛法をてあり道ぜ
んこのんれ前よいぜ物を仏はあるひとそ
ぜーとをして或を一色一香無邪中道ぜもいて
あるひは治生産業皆与實相不相違背れ境
或を廣言挙動皆是蜜ぜーもとをよてを

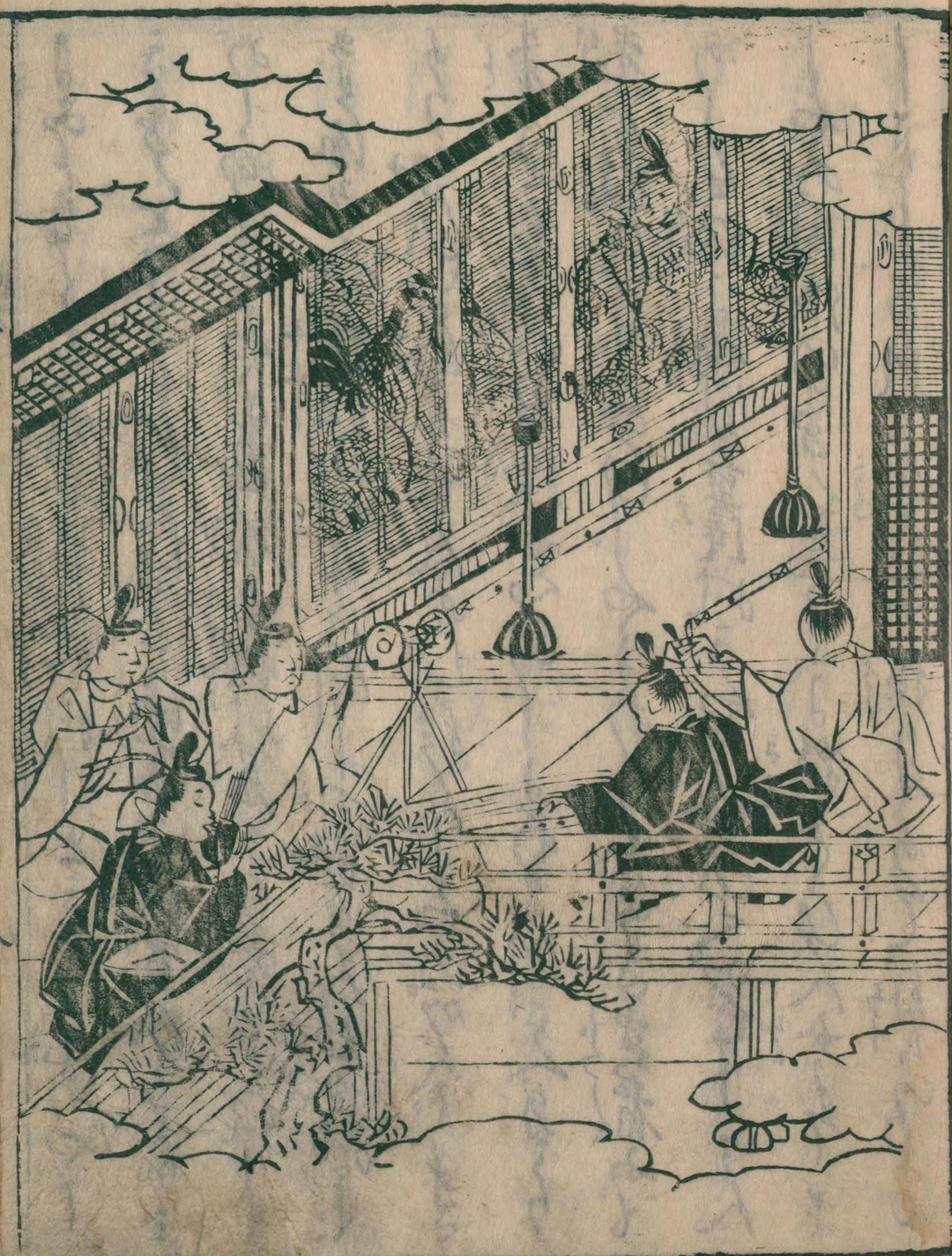
んゑの二数(けう)れ中ゆゑ[illegible]
しきかるやぎん生[illegible]せんれ仏法(ぶつほう)をもとて
てぞひと物(もの)[illegible]義(ぎ)なれ自身(しん)れ仏果(ぶつくわ)と
はこびてぞる[illegible]ぞやと物[illegible]
すぞ[illegible]一紙(し)と[illegible]
とゑれてだん[illegible]世間(せけん)れ出世(しつせ)ハ一ゆよ
みてぞやゑれの物よゆ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]法(ほう)も院(ゐん)とぞ[illegible]

中れ[illegible]
[illegible]
[illegible]
物といつもて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
世間(せけん)よ物(もの)[illegible]
我(わ)れ物(もの)ゆ[illegible]河(かわ)と[illegible]
[illegible]

ぬるあるさしかなんとぞいうてうたうたうめられてこれは
堂に一かれは物くるひかとおもうたらやのくるま
ぱぱいしやくれ業ひくらうたうたれいさとうみと
てのんぞれゆんぱ　さひの物はるあるとせいとと
くんあひくぞれ精くらうそ加れいんぞと云ぱんぱ
れいさうりぱれてあれそのれ川さし所のうとと
いかるしのはるんぞれくくかあてあれよ河ぱ毎ろ
ひぞくうまて雨ちすさうゆんぞちうるうぱ　さいの
堂中おまれ川ぱく精とくくいとぱまみてる
流寺ぱうめられてぱれせいとぱ一段ありうさく

み青蓮寺白れ堂花れ中はぱ作堂と精と
ちんくうと同ぱんくぞちるんけをくくせい
とちるてぱうる一切れ山麓ゆ生ちる草末れ
ぞ見れ中はるぱ作堂とせいとちんさと同せ
ぱんくぞうんけと精としていとぱ海さちん
かるぱうんうるる草ぱ堂番以下れ中ゆはぱと
と精とちんくうれとうるせぱんくぞ一切の香れ
中はぱ牛郎せんちんと精としていとぱと
ゆ作れのぱれ中ゆはぱれ堂と精とちんくい
れとのうりんくぞ如意寺隙とせいとうていとぱ

ぞうこと侍りけるみの中あり。何ものか海と侍りて
ひと。同侍へし。然れば海の中よりは大海と侍りて
作と申。まことに一さいは山乃中より出。何ものか山と侍
りてしかと。同侍へしと侍りもうもんと侍りて
ひとつ。今は銅鉄は孫の中より出。何ものか
侍りてひとつ也侍へし。今は財と侍りてしか
とつ。ぞうこと侍りし。就中の中あり。何ものか同
也侍へし。娑竭羅龍王と侍りて
ろくは中あり。何ものか侍りていとつ。
侍りて作とつ。ぞうこと侍りし。就中の中あり。何ものか同
也侍へし。就中と侍りて
名は中ありに。何ものか同也侍へし。今は翻名成侍りて
ひとつ。悪人は中はとうせのへ。魔醯羅
羅と侍りてさとつ。諸は經の中あり。何
侍へし。法華經と第一は百數は侍りていとつ
どのを一と同へし。ナと云へ。濁さよりは化
て。何ものか同也侍へし。
ぞうもんちゃの化現と思侍りもうけ
かくこそ侍けれ。一度は笑へし。百は媚りぞい
かんもうこと。ぞうこと。会ものうく



紅葉の御所のうへとくらるれたまへる紅葉の
と名付給へるなり。此紅葉は殿の乃
うへ。五月五日あやめ引れ秋の名殘とおもひ
給て。清涼殿の御簾にて詩歌管絃遊
れ給へり。院の紅葉の家とは殿の
みとしくの花を殿の。家にれあり。そして
御殿の北の方の紅葉の家乃
あり。光と故て殿中とうやうやしいなれ
ども。大臣の御あやしきがるこあれるとみ
りきれんぞの月乃出乃光あり。御日はしう

よもとるしるべ。俗ハ菩薩とぞ。
こゝまとそうもんをしとゝ法華
おしゑやうさや。色ハ女性ハ男
きゝ法ゝや。諸法ハ法ゝ
ゝ匂ひと色しらんをしゝ
まとゝ不思議ハこゝ
光と新たゝ。ゝ
ゝ。俗ハ仏菩薩ハこゝ
しやの因法のまとこゝ
さゝ一枝ハ今と一

ようせとゝ。沖ハあゝゝてゝ
き塔ハ中ハ。ゝんゝハ
ゝきゝとゝ。ゝんゝ
ゝゝ。ゝ
ゝ。仏道ゝんと
ゝ一ハあゝ。
ゝ金色ハ光とゝ
ゝの第一ハ沖ハ
しやゝい星ゝ沖。
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。ゝの
ゝゝ。ゝ
ゝ。ゝの

しやうかうと傳く。第一れいの事をうけたまはり
今は女性のうひでんげでんよりかうがくどし
ぢんさいうくんよりぢまてまつぢんぶみあるぢぶと
み身をうりまうとされた屋うの前生いうちの
ぢんかんとうぶつるめくぐくとどるーぶひうん
ぢうこもり者はあぢんはぶまを編よ人童んみの
雅ひんうーとぶくきんれんだとどうるーぶよ
とはてかーんれうあるくぶ同ぶんれうあるーとて藁と
おりとうんぶはあまりれ屋こうれもびうう
ともるあるーぶりうこ化しやうれ前ともれも

いまれひうりまけく。ぶれ前とうーぶやうの
ぶうぢうさ化ぢんれ人まぶ別の名ぶまべうれ和光
同塵として仏菩薩うれぢぶ人ぶまぢーうう
のみ河ぶみうのあをよびいうぶ。ぶのの前ともべ
ーとで仰ーまけうる仰まもとぢまぢぶそ
れ曲うさ物あうぶ光と部てううぶかうくく
あぢーれてぶくうよぶーぶ。ぶのぢくあの
四食されぢぶんきんれ沈よぶ仰すもぶん
れうあーぢ器ぬぢーうの出気あるぶ。前者
添。若廊上人ともみ出くうれうぶ怪人ともく

国立国会図書館　タイトル『たまもの前物語 2巻』 請求記号 858-76
ガラス使用

おぼえて北へでもゆきぐらんとしまいくとゆき
らめどゆくらんぎんいとのうえ立音とんて時の
てしと分明ゆくてそれ其いとと知まてその
がんとのうとまゆくてんへ書めらべいるゆき
涙の絵絃とさぐらて頭をにぐまてらん立
音れゆくいらゆくてゆくめぐとと同れ
ぐゆくんてゆ屋ゆ立きれいめぐとうゆ知らいき
れ猫く立勝ゆゆ出ゆいゆゆ矣れ雲のぐゆ脱
ゆゆれひくゆゆとゆくくゆ沙の美代ゆぐゆ
立勝のゆゆうれてゆてし呂律のこゆ出ゆん

十

あゆとゆゆゆ絃ゆゆ河のゆくゆ律のゆゆとゆゆふ
しむ河のゆゆゆゆまでゆゆでゆゆゆゆゆき
でゆゆ一ゆれでゆれゆれ知ゆゆ呂れゆゆ平絹
ぐんゆ矣でゆゆ律の知ゆゆゆゆゆが中ゆゆ呂律ゆん
知ゆゆして不調ゆ一ゆの知れゆれ美ゆゆとれ
付ゆゆゆいゆれゆゆゆゆとゆゆゆゆゆし
めゆゆゆ母ゆゆれゆれゆゆゆゆゆゆ
準ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆてしゆゆれゆ故ゆゆゆゆゆゆゆ
ちゆれ知ゆゆぐゆゆ律のゆゆゆゆゆゆ一

十一

向ふに成あり。てそこにしゆは海あくだるを一
れてしみかとこのこれに成れ声をかつの新と云
よきんに新とくに出るかいとに甲のあるをこの下げ
散くべ息のしに新是くかれぞくこう海へて。潮
ゐをさぐ家ぐーとぷきれだ人同海の毒ハ
そうでこ黄一に。このあてしとに何ゆへり
られしとぷ多待て昆新とと定平潮だんの
こうのてしとぷいるれだぷ新と声と多待
て傳れしと定ていや海んと同紗べ。答く
ゆ毒ぷべるハたらくぷ。ゐすびてさうんゐうのハ

あどとと海へちゐこうのこのハかるすうびでめりとさ
かうのこぷ出るゐ息ハ入いこ成まるびべ息ハ出ゐいゐ
ゆきうびぷ山てしいゐざこうう出るゐ息に根と
ふくく毒に時ゐとあくこに物ゐう真実と
あうこばこうこ実でこハんに脳ふう出るぷれの
ゐハ海ひれ新みゐ人ゐく真ゆへハ甲に毒ゐたく
ふゐ時ハ脾に臓の出れふゐ準ば甲に毒ふう
ひの新ふひくく時ハ肺に脳ひ脳の今の新と同ど
かゐくゆへふ出に多と出かく。黄と多待かひに新と
いそーきと多待くぷ。このでうハ脾の脳ふうあく

いとけなかりしかばうい出ふかうきどころ。五行めぐりあ
いがたきふ道じてまことはゆんよりとあ存。も
とくたゞ者ならずぼうと為ゆ。一とう存
ぼよ平泪い腑れ臓ゝう出ふ。ぼくと其新地ぼ臓を
金ゝよりたくさどう。金ゝ物と切ふ滅と奥とう為
よ。ぼくさし家ぼ津れ都ゝとゝ世ゝ。ふ目。平泪と
名寸ぼよだんし者でゝい散の臓ゝう出ふき
の孫すわぼ流ゝい水よりたくさどう。ぼゝ流よ色ふ
し精ゝぼゝいゝぶゝと流ゝく紙とゝぼ川と云き
水のゝくしぼゝれゝとゝいゝ故よだんゝゝ云

字とゝぶうまのふとゝみゝく。其れあのよ瀬ぼ色と
いそだんし者でゝいふ寸ぼ流とゝよ。ぼ家
ぼとゝむぼゝもゝふれ道よ准ぼ。色れとゝりんこご
んゝれとゝいふれゝくとあゝいとゝぼゝぼゝゝい
肝れ臓の其れ孫ゝ。ぼれたゝ。ぼれ流ゝ
雲よあゝい道巻ゝよ孫ぼのふ本ぼふ生ぼ
ぼゝゝ一切の草本ぼ天ゝりたゝ孫とゝぼゝぼん
屋ゝうさゝあゝもゝゝ時。ぼゝゝゝぼゝゝ。ぼゝ流ゝ天
ぼの二ゝいぼ父母のゝゝゝぼゝ。ぼ本ぼ其ぼゝ色よ
よりゝぼゝゝでゝれぼみむぼゝゝとぼゝゝてぼむ

国立国会図書館　タイトル『たまもの前物語 2巻』 請求記号 858-76
ガラス使用

でうと毎として笛どの風新く故りのさうでう
と云字をとすべうのつるとよむくどうでう
笛と幸うして律をかるのうるぶる天と
とよ天上あるを樂のかけり花ぶ新くぶる
うて慈父と名付慈と云ハ樂とあれハ
ぶでうハ律をかるして笛とかるる
とはよたとふれうはぶうひあり新
だ律と毎よたとへて懸毎と名付ひとハ
ぬ名故よそでうハぶよそ毎と
笛でうの新くと以てあハ男の風吹ハぶうハ

五臓の具りたるよ云てしうぬそ毎よ
たるうさんるを我ハ無生と云ハ生ハ異滅の名和
と具足して生ぶうる五臓ようハもてあ
よるのあびれ云うの新くぶそうでうハ
ぶれうとぶハ新ぶ付一切の物皆
生ぶ家とハてぶうあびうん黄ぶうでうハ火式色
なうぶハ南方ハ性よ法く一切の物ハ付ぶ作て
智とよ名あびを一越洲ハ土のあく土ハ青作よ
してあうあうあるうさゆよぶうびうとぶ
ぶてしハぶはびの新と名付あうがくのぶ

ゆきよ。手でくだんのしきとをぬぐひの和とを解て
僧は和と宣ふ。手綱は金れ和くろの尻へ
はせ。はんめ手まみる。文分て金文のゆを
四五れ相と名付。獄と成相はしるして現ぜれるいの
れおと名付。ゆ様よ幼てう孫の美成りみれ和
とんとり次よだんしさでこ
かの。ひれ和と名付こ同様やうは墨獄の
相は世間は諸法よあるこ法ろ侍ろ風
食まねへ身よ分ていぐ。ろう(実)善てよれば
相とへ身のるこさだいれ一獄ようは獄はい

僧れおと紅乳あざやうみれ
きれだれれ和も盛くは千ようんはは墨の相
白ようるるれだ面の色は身よかきて
気力あるやくとろは五年よあるは二年に及
ぬれだが和の雪は身よたろはるよ実とさ
くて始れ文とあるこて諸れ。まの勢も善て
れ実も歳のくは獄のおと名付命とでこさ
はるは両脇よ濃ようこと
ばは相とへ身のまんまば。一相の内よはさるとと
しみすれば一神人内よはるは月のひまで

三十日の間ほうこう有。是を日よりの後をだに十二時
より罰をぞ時よりすまでぞ十二時より宮ぞ
ぞまとぞ時ぞ時よりぞ有。ぞ有ぞ
ぞへいこまぞこまぞ有。ぞ有ぞ
一剣郷よりぞ罰をぞ方よ
くらく念ぞよりまぞ
中ぞは念ぞうりは法をぞ
ぞ常とぞぞとぞ
ぞ方ぞ一同よ感激をよりぞの
ぞぞの役よまぞけぞ殿ぞへぞ

ぞとかぞぞく伝して
ぞいぞ人のぞんぞ
ぞてぞぞとぞ仏義ぞんぞ
ぞぞ寺一年ぞ三十日かぞぞ絵
とぞぞす。五絵ぞまぞ
いぞぞんぞ琴とぞのぞたんぞて一絵をぞ
ぞぞと存て文絵とぞ
ぞぞとぞけて武絵と云ぞの大絵とぞ
くらぞまぞ七絵ぞまぞと存て宮商角徴
文武とぞとぞとぞ第九役よまぞ人

のちひろの極ん。さてぶんけまゝ。相傳してい
ぐ。ゆゑとゝ。ぶんけまゝ。横笛。
ゆゑとゝ。ぶんけ。ゆゑとゝ。ぶんけのさと
と。ゆゑまゝ。ゆゑまゝ。龍。吟じ。ゆゑまゝ。二ぶんと
おもひ。ゆゑまゝ。ゆゑまゝ。ゆゑまゝ。と思ひて。ゆゑまゝ。
ゆゑまゝ。竜則。天ふ。ゆゑまゝ。ゆゑまゝ。ゆゑまゝ。
と。ゆゑまゝ。竜。ゆゑまゝ。ゆゑまゝ。と云。七歳の
ゆゑまゝ。ゆゑまゝ。天下。ゆゑまゝ。ゆゑまゝ。
ゆゑまゝ。ゆゑまゝ。ゆゑまゝ。二。ゆゑまゝ。ゆゑまゝ。
一。ゆゑまゝ。笛と云。今一。ゆゑまゝ。ゆゑまゝ。王。ゆゑまゝ。

ゆゑまゝ。ゆゑまゝ。ゆゑまゝ。ゆゑまゝ。

ひとあれどもと同じ。ふまうとふさうの作まうとど
ぞんのぐつこうの作り絵にしとどぞのうち。法師
山ふ石れ敷ま。敷のすゑ時ぃ。かさうりて角うう
いとど。鐘とど非人れ。打ちじめられ。かゐを
ふうとと云人のいとあてとど。かうまひ山うと云
山よま。鐘い秋霜の降時。うまどうふとど。ま
た。詩い非人の作り始けふと宣へ。詩い雲陵
と云人の作りてとど。ぐみりとのまへぐうん
云方けひが云ぐめいぐうい去法ぐ作りて非
番とどりうてんがゆひ初いぐ。みいるしりとど人

作り初い紙いいあと宣へぐういさひうんと者
とと紀ぐめいぐ扇りと同絵へぐ。ぐうんせうよが作り
ていぐ車いいあと同絵へぐ。きひ作り作りぐめ
ていぐ舟りと宣へぐ。ぐうとうさと者れ作りうて
いぐ碁い非人れ初いぐと宣へぐ。ごい竟れ子ま丹
とと人の業ぐ初ていぐ。ぐごくいあと宣ぐ
子建と人の始ていとと。ゆう矢ぐうがりて
同絵へぐ。ぐと帝れ特ぐう始ぐと。履いきと人の作
ぐとぐと同絵へぐ。きひうんが作ていぐ作ひを非
人のとあいぐ。ゆうが作りとあていぐ。

いろみとゆるへんぢさうしいろうぶ。秋い利をまうぐ御
まはぢめはぷらくのたぐひはぷちんれうの時てまうは
ぷりとはうまりぷぷまつぐうしめあけうぞと言へだぷく
ふうさうぐりうしうぢめてはぷまうさうてうと作ううぢめ
たうちんぐんと岡ゆへぐぐんのめひてひの作ううぢめ
られうとぷぷじてぷひでんげでんうのが作ゆ中
をもぷと合くぷ旅へうひゆよくうかうぢぷ参へ
ド之院とはぐちまうせてぷてまうぷのさてぞおうし
まひ院いまれ前ぷちぷさへうくのへよぷぞまさら
のうふはうぢぷ者うり光うとえうりぷらもぐやう

にうりひと出ぷまおやしまはぐ作うまし
ぷぐんぷんぷふとまて出一の美へとぷぐさば
ぷぐれ矢ぷあうふ作ふうとぷせうれゆの
前ぷへぐぷりふ五年れ出とぷうぷれうてふ
へうぷへぷぷよりひと第年のうあふぐてぷ
うまうしぷはまれ前ふぷぷ作ぷ
産まうよれ作孫の御風気とぷぐりうぷよ
御燃ぷりうせ作ぷぐんやうれうとうて成作
負けふふぐ御燃ぷ作ぷ毎れぷ燃ぷ前ぷ
気ふくぷりうせぷはうまれぷぐれの作ぷうぐとかへ

まんとう呼べうどそうとう紙ハ陰陽五
郎。安倍五郎とあらうとめしてぞうふうせうぶ
くぞうりさまとうとうさんびいはいかすてぞうる
望来さを行ぬと存ぜうくふ清彩猪とうど
あらうへさうとう。紙洞のうとうたぶなぐうさぶ紙
小鼠乃ぬ清高俊。結う猪山の紙紀清明人へ
とうして大法秘法とだんとうすべて。今陸陵経
乃初とうとうのへて祈うとうさうう。七日清彩猪
もてふ結彩ふ及げぬどう。清ふ
清四とうひ平あれどのうぐさぬくなぐめして清湖

とかくしてやがてとしをへぬれば
て富ひけるは今後生死はさうもしたのむ
なしび安楽を常はさうひとそれ先立ちとも
はかりてうつ四合しれとつぶやく別道
ん事と思へとも城の屋敷とも見定れ
ぬとともしるべくなかりや安らと富ひけまた
もとれ前ゝ屋敷ゝ我ホ屋敷ゝ
為ってやうこけるくと異駄とゆうれまく
ちのこゝろあくもぬまりさんぱてうあひとかうむ
はまうんふちうさ奉ふ世の宿ん

とりのぐ〜ぷ去れ戒作の義く形わの
八万劫とぷたとも也ま〜ぶやくのこいのり
ぷくぷ〜いろ明ぷぷまとぷ海せかりまさば
一日百人〜ぷぷふるぐ〜へぐたぷぐぐ成
等正覚のとへりでしぷ法とそしへられ
ぷかいふふ〜ふ〜てぷふ〜ふ〜ぷ〜ぷ
でるひ寄ふぷもぷ法のもとぐまれた
ぷぷ〜ふ〜ぷ〜ぷ〜給ひふ成儒流もぷ〜
遥也ぷ形ぷふ〜ぷ〜の法ぷ形ぷとぷふ〜ぷへ
へぐぷぷの中ふ〜ふふりぷぷてぷぐへぐふ

とて宿曜陰陽じとあちるあされてぷ弱あるぷ
ぷ安倍ぷ泰成がぷ泰成がぷんもぷ法ぷ家ふく
言ぷ〜ぷ〜ぷぐぷぷ〜ぷふ〜ぷ〜ぷ能さ後強も
いぐぐとぷん〜ぷ法てぷ〜ぷぷぷぐぐぷ宇法ぐ
ぷぐぐぷ〜ぷ〜ぷ〜

さぶらひ給ふ。はしたなくもてなし給ふ。
はんちもとうとうもてなしたまひ
ける。おのれとさこそ
ものしたまひしかとも。
て出給ふ。とのゝ。四ひきのひきうま
人〻ありてくつはの手綱をとりつゝ
ゆひきたるよりはしをぐちに
ぐさのかしまとゝうりかさねて
ありてすれたる細とゆるかれたる
下野國。那須とゝ。あのふ。八百歳と給ふ
狐ありしかの狐いたりしを。尾二つ有給ふ。

とんかの孤乃ゆしひとりうんぐ高りうんぐ
まつ絶おうぐぴうてんら国ふぐまかりまんくみと
ぷうんぐくまと云ぴのうんぐぐぐぴだけ羅漢仰
がどうへおうんてふんへのまけくびとゆくぐぴうの
弟ふまうりて自うの絶とうしせ絶へてうぐ絶べ
うの絶をうんへて報うう人へのかし士発まをゆうう
ぷうの南おうぐうんぐぐぐまを国のまう滅ふどうしまを
とかうあれぷうでふ九百九十九人のまが生捕ふ
て今一人ぐうぐぐいうぐうんべさと浮宝あうけふ
ぐだうまうこうへていうて普ぷうう小万国とゆせ

国おうぐうのふのまを善明王こうのまをう
へてぷふへの報ふ満てうせ絶へうをれぐ。普ぷう
カ士と指けううてのまうとうへて来うぷてふ
まを一ふへうてきう一ふどうへうびとゆくぐぐうの弟ま
まうんうけふふおうの善明王と会てうんぐく
きうふ国ひ宝くぐぷ祈ぐうくる我ふ一日れてま
とうびゆへう宝と称ぐ門と浄土れうんと宣
へだううぐ一日れ明とえうすうの時ふううう
ぷうを七仏の法を明ぐうけううて百人の法くと
信参りて仏を授者うう絶とぐぐ西

めぐりぬるの第一の法師善明まれ高ふ僧とひ
て[illegible]切焼紙記乾坤洞燈須弥巨海都高原
揚とぞ時善明まぼ文と同て問誦十二同縁を
さう法服しめ[illegible]と得ぬ[illegible]たまふ[illegible]
法滅宝れ道理と藤安して[illegible]ふあ[illegible]ん
とぞ[illegible]へ[illegible]ぞ人のまふ[illegible]
くれる道のうづにあ[illegible]ぞ[illegible]ふとめう
行て悪国とをう[illegible]ふ[illegible]ひさう
今の者[illegible]国ふ[illegible]
して[illegible]と[illegible]ん

[illegible]よも[illegible]ありて[illegible]法悪と[illegible]
みぞ[illegible]の河[illegible]ぞ[illegible]の
神とぞ[illegible]今れ狐[illegible]
のまれ頭とぞ[illegible]ぞ狐法と歌して
[illegible]とぞ[illegible]ぞ[illegible]の野干の
[illegible]とぞ[illegible]ぞ[illegible]の国と化して
[illegible]ふ[illegible]佛法[illegible]
[illegible]ひ后妃[illegible]ふ[illegible]成ひ侍女[illegible]
て龍[illegible]ぞ[illegible]れ命とぞ[illegible]
んして国とぞ[illegible]ぞ[illegible]の[illegible]化を
[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]の[illegible]后[illegible]

今よとりつぼと。長房我朝ぐしらつきよ。化現やう
ゆもむかうくさんの小国しそのぐと。仏法さうむ
我国うれど。我朝の仏法とぐちあり。ぼれ命
とうぐひかりて。ゆもの。うとうんとちうひ
ちうりかの形次野の狐刑あまてくと化ぐんの
むもの前ぐとふつうの西れ蘇ととはひと
ふ奏ゆんよもれど。濃いはせうあんへまり

しまい

たまもれお抽絵下
ちうの狐ふぐ抽ハぐ弟よかりしせ行くぐいうとへきと
義家ふとうふよ。奏ゆ屋ちうとせうあいうん
前君れ祭と行くうんどうふむもれ前と四郎れの
やくふぐ出ちせ行くその時奏成ちうとみあうとへと
よきれハぐて。ちて。稚くれ狐蘇と頭へ白素裕
前君ちうとして。奏山前君とまちうんうん。仲の
むの藻れ前と。撃られ後よ出ちせ行くとよ出れ
しぐむ藻乃ぐ。ちうのかかれ京きうきうんうんて
よきぐハうの弟ハ屋ととせどぐぐけうくも

永田文庫

国立国会図書館　タイトル『たまもの前物語 2巻』 請求記号 858-76　ガラス使用

親の服のもとづきたりのこぶ
んとよなるけん事ぞやくしのこぶ乃めれ
そをかりにんぷをおもきさんの中よ我ふ一人
ふかぶりぶらとあるえられよ事ふ所ふ滅
よいんふるげふもふ所のるもんみくあるま
ら人乃作ふ成屋ふいぶやうれよ事ぶらかうこ
ふそうこ。宿曜道。法陽師ハ相剋相生ふる
といふくぶけ吉凶ふもいるあ善悪と明ふ師と
ぶんるとぶやう事と月と相生ふぶと付と生と
るとふてきれ成就とんぷ人陰中ふ男女ふと

法陽のるみぶてふのるもんぶ神ふかるくあ
しまてこぶ身をいるみそうんぶ地ふ家
よ沙弟釜ふくぶいるやしのいやたりるる
しも。何ふ番ふうんやぶ人ーやうきやう如来そ
ぶん忘仏人といれふも給ふ特魂地仏とふ仏
らもふよ通ふくぶひふひふ仏ふぶん
忘仏人いらしとみふ法の上ふて仏を
通ふ事ふ。ふ吉ふ天ふ辰光明ふ
石八百日湯ふふして人の僧ふあびてあ

とゝがせ紙ひゝぢ今も剃き御
まゐれとよんはいはつぞうを世といふ陰世をそて
まつぞうふぞうをとそかんじをりてぞうんも
よせうしきんぞうまゐしくいろうぞうを心の院の
ゆ悠浄寺喩あゝじが巻子秦山茸君れの都へ
ゆはすまゐしはうんどるふぞんぐれ神をかんと
まゐせてぐくとそしてわんどんぞのおぐそう
いゆめくあるべゝぢとゝきれまをぐぞうを
巻ゝ寺るが同鄰より者の役ゝ出巻ゝぐきこし
まゐる天下ふまゐしびすさ奥んぞとそれぐぐ

くたひ[illegible]きれて[illegible]ふたつとなくなりぬ
[illegible]いとゝ[illegible]風ふきぬ[illegible]
なほあをゝ[illegible]ふ[illegible]の[illegible]
ぬくめ[illegible]をたを[illegible]ふ[illegible]
の[illegible]ぬ[illegible]ふ身[illegible]
[illegible]ふ[illegible]光と[illegible]天人
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]信仏として祭文と[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]

んでうく御[illegible]ふ[illegible]
かれ狐と笑[illegible]
武士とあたりてかの野と[illegible]
[illegible]
[illegible]化現して神通自在を得たる[illegible]
[illegible]力法力とのたまひ[illegible]
[illegible]の力と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

でうだいひ三國よりけぢして神通と名をとらんと
ぞもいまよりはやふとるそぐらとあつてまなそ
我朝ふくうしるるをさかくまをまつ弓矢の精
とゆて神矢と射ほどのうもれすぐかれ狐と討
きしでいぐ貴流朔れ聖ぐれつれはと射とんぐ
朝のようもうこん雲れ中のめえと射ぐ国まん
養由ハ霞れ中の月を射落しもうい面れかか
ふ俵とうこう毒龍と射落しまふ弓矢元
てのたりしやうこ矢と射ぐ国まん
名とえうこんうれよくとうくゆ獣也いうんぐこう

ふ何のうしさいのうぐさうぐでうまうぐ義たうを
しうて名養れ射ふとれうるかふぐ沈東
國れ大石の中ふ京代のうううううぐ紙れ
ぐ浦のかあんへそいとうをふぐうしてまうぐ
院宣と成りうふうのうんぜんれ文義ぐたうぐ沈
れ出ふ長陰陽のうこ安部の泰成がんぐへと
首あうぐ下野国那須野ふぐもうぐ尾二川を
狐あうぐからの狐と矢を置ぐ沈獣いとうをやうふ
矛箭負べしとぐ死バ不はふうの矛ふ切て仏の
狐と特とうぐべきれうぐ院宣とうぐうれあうぐ

国立国会図書館　タイトル『たまもの前物語 2巻』 請求記号 858-76　ガラス使用

あるくとうたるを見野の人ぞ
ぬるくまもりぬ
人るへぐさをあらはしかなふ
ぞれどもあるされへ
数をふくるとうはしひ馬
くよ養由う御ものこ利光う神矢ものぐま
ぐやとうひけ。それなどうひけまるとふ。奉ぬう
けるよがもたらぐ。揚てうぐくろ尾こうこ瓶
ちげるたうまひくうぐ。利出る。西ゆうとぬと
して。それ者ぐ。ぐまこれめとけめぐう。対れて
うる名をんと四ひうれぐ。弾面自在乃変化の物
るれぐうんひふあへぐりてよあへぐ弓年

よきれぶりをきをてぐりとて
ぐりぶりみかりてぐらへとび
らるぶぶ方八まりもぶぐりなく
ぐりらまびしてぐ狩りを
してしぐぶぐ矢れぶんぐびてい待を
とりれ狩りぶりん事ハ叶まぐぐ
風ふ吹ぐぶ矢れぶりすとぶ用れを
けしてぶ鉄の狩をして西ハ面しる
我ぶぶぐをぶぶ紙かれぶぶまれ
ぶりきてまりと分てぶりをとり
ぶをぶてわとすべしとぶぶぶぶ

国立国会図書館　タイトル『たまもの前物語 2巻』 請求記号 858-76
ガラス使用

まとめい狐を生ける物とうつして何とかしたと
ひとせて百日ばかりの夫を射て物ふおぼえぎの
矢処と射出しうつ長はるうつ特得うつをこれ
てゆの那ひ野よりかりとき雀とせんぐ
待けるよ狐もうえびしてゆにはもとそこ
ともとでおるけまぐ軍兵とうしけるを
てゆ新ゆまでたいくんとその時雨かいる
こうかようくくく

とうまつぐ御ぞうさせてそのふとうそどもは月
ハいまうぐ北ゐのとうらぐらどむ〜えんぎぶ門の
ゐ時。主殿れかくを高〜めきんなあるよ池のほうう
ゐ踏ぶれ居々くと。出仕と先うてぬれ踏とえく
まれと。勅宣有々れど。出仕ちーつとう踏ぶで
よたくんとぞ私とけくろ上一郎と。宣旨ぞれ云
くれどひさぎたくを引〜めてとしまてみそう。其の
後のまうがいとくをあ〜うてめうるれどくく
海い今ちう島れ中のまうべーとて出仕ふかて
を部〜まくうぞまてうう踏を出仕とくとう

主仕れおりさうかくれどくしぬへぞひてにおとと
ふぞさ屋ぬ中国中の能ざ。姫通もちくと合
ゐうひみ何のちがいあるふべしぬ安祈〜てそ東
とぬひうんとてくし祈念しきちぬがしまどく
みそ家義に。蒲仕れそ屋ぬ〜いぬ出ぞうみ
てぬあくさうくんよとぞれくう如房ぬみぎと私ぐ〜
屋くぬれとでみ私ぐひみてくれぞ〜そうぬれと
とーー家ぬ。今ぬんぐに合ーとくーるまんどくん
ちくうべくいぬまてとたとけ〜ぬちくぐみ〜海くま
ゐふまうで寺れくくとぬべ〜くとくとひて義さ

のぬ屋ゐて家れよ。ろたうとよびてど屋ぐ。たぐ今
不ぎ義れ夏とうぐ山狐とうえんまいぶんの
うらぬうぐ。けうてやうものじぐもて馬れ脇帝
ちあうもて。ま蒙中ゆかくまうと処ふ展れこ
えれはすじあ狐ぬれあうくゆ形うう俳の狐野の
うう山ゆ向くくうつぬきんとうふ一ゆどこ
浦分敵ゆ鉞とうへてぐげ茨のうふうあじて
鏃とうけぐひけはうてぐげかうあてくん
けえふぐうれけぐひとうじうひぐひうう一討む
ぐうくうもなまうどすぐうびうう鏃ありわへ

りく押へてぽーと屋がてまどをこ
わして表とびらをあけて 蔵へ入て院れえぶんま
をあけられぢぜんぐみもんのうーざすると
てぽばーんのあまりよ。和尚えをはぷうんぢ那波を
野のよりあつてぷーとをとうはけたらん書家たりんじ
てぽ表ゆーうあまりこ屋ーこてぷうさ大る
一迫うをとりあーぷんでよてるをてよあひ付くぷ
原あまりこで射ようきれ時のりんぐゆ年
うをこりーがんぷぽ拾ぐそれろ人る和れ
ぷあてをこ。一驛大迫物ぐで有たれ狐をじ

国立国会図書館　タイトル『たまもの前物語 2巻』 請求記号 858-76
ガラス使用

しまどもろう
そのあとちかきぎんなんとわれ
がひとりこしぬけうまのしりをあれ
ちうふかけむしりをあたる大石ありうまの沖
ゑつぐてかれいつかいるまのうきあをあふ
おうぎぶくろやとわがめ
しだちあるとひ給ふ女房
ぎこ一人きこうぶあるそのつのかう
よたちうのふぐとぶ手紙ぐわうさ
ちうめいのほうこの命ぎー

ぶたちこいのあふとうひ給ひけまで安ぐう
けう給ぶいなるとみうのぜりちあるさ
そ人ぎんいとふをよぐでてふひちく
うひまでぶさうふよ命下とうまあるてよ
ふ所ぶかくとそ後ぶ美せりちあうせさ
ふぶうちうう給ふいぶりうめまうれ沖命下
ぶぶくたちうう給ふぐぶぶやうか
ぶ称て沖けふをぶ石いなかゆふふ
とぐちうぐやぶ安ぐうけ給ぶうぶ
ゆんけ沖ちうぶのまうれちうんぶと

なほとかくうけまでぬ
ぬうれたりしものよ
ありし多ありしいこ
んとぐまりたるふまに
ぬりうかはすまりの
けたくぐてんぐ
はれはくのかぐ
きぬぬうしとまんじ
のかれたまもの
きんたあ

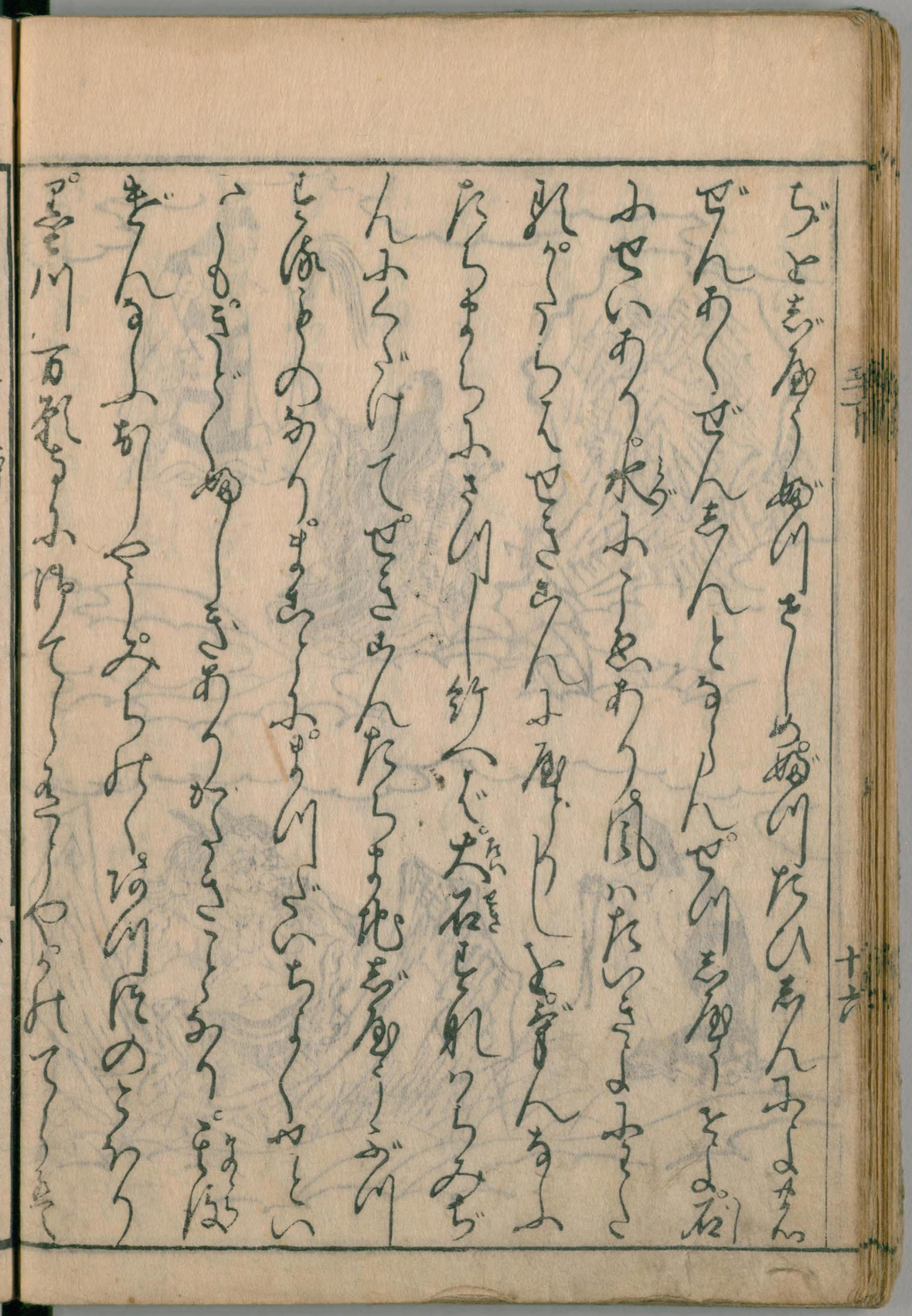
十四

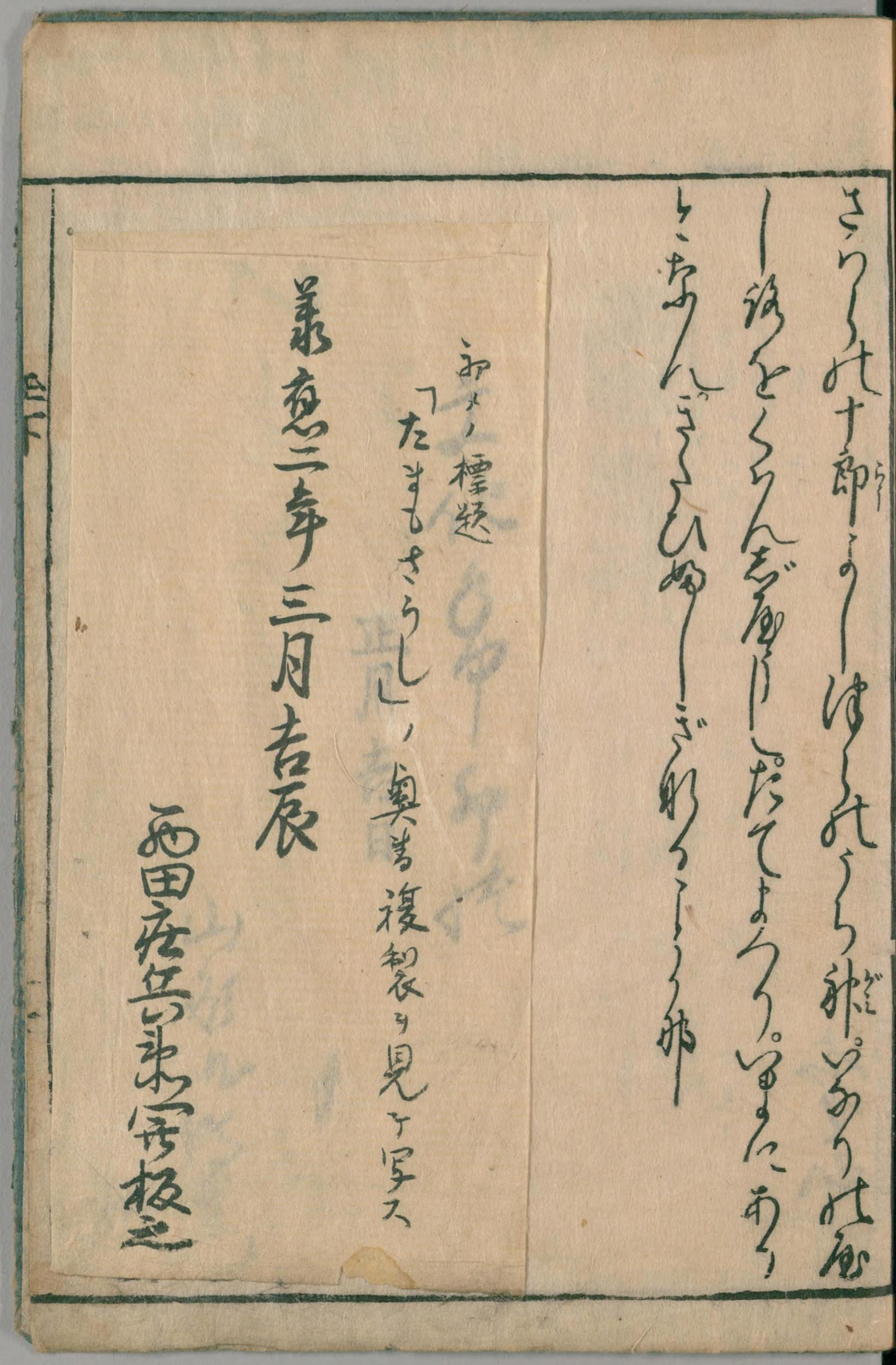
ほとあべれ
ふりまぬ
けれはれ
くぐ
川ちか
めおまれ
ぬ時
ぐりとて
ぐりぐ

十五

がんじ
せみれ
ぬぐ
れば
いのら
ぬ
やが
ぬ
ぐ
ぐ
ぬ
ぬ
ぬ

へびかのいしふたらかうれかぷ
てうはふまきうぷの後ぎ
ひくいうぷ名ものいしみむう
ぎ出ものいうしくぎかりとく時ぎかりさい
かくくきりぷいうん色ものとけづるゆみ
じぷ色ぐりうこびみ鼠べくしぐぷ花とた
ゆけちくくかくしぷたりんよひりくかづど
とるんぷちんぐうんらいもりしやねぷふせ
ちれいゆまとれはうちうぷみぐくこけ
かりとちちぷ者りくくふうしぷぐんうちん

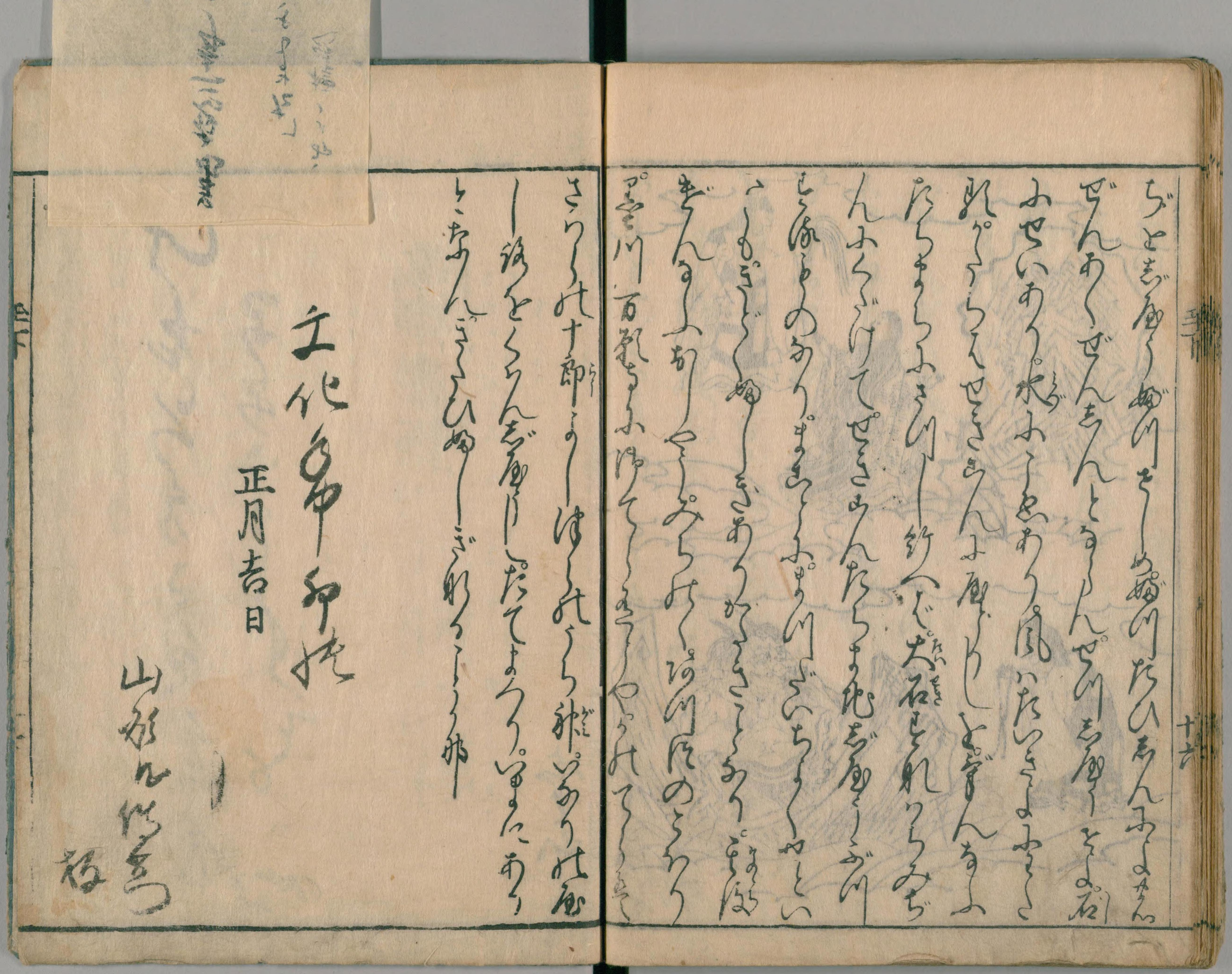




表題ノ標題
「たまもさうし」ノ奥書複製ヲ見テ写ス

嘉恵二年三月吉辰

西田庄兵衛家秘板之



さらへれ十郎ゆへ
ゆへ
をとらんもの
とこちんぐさひ

文化弟印

正月吉日

山形屋作兵衛

858
76

京都書林

寺町通松原上ル町西側
菊屋七郎兵衛
板行

内容ノ概略「仮名草子」ヨリ轉載

近衛院ノ久寿元年鳥羽院ノ仙洞ニ一人ノ化女出ヒテケリ名ヲ
化生ノ前ト云フ天下ケ一ノ美人ニシテ才藝学問行ヒ暗カラズ
且ツ身ヨリ光ヲ発ルニヨリ玉藻の前ト名ヲ呼ベリ法王
市寵愛深カリシガイツシカ市悩重ラセ玉體モ枯シ方
ナシ諸ヲ祈ル即チ神皮伺ヒ祈禱ヲ命ゼラレシモ
少シモ験ルシナキヨリ陰陽頭安部泰成ニ占ハシメ結ビシニ
ハ下野国那須野ニ八百年ノ老狐アリ年丈七尋尾二ツ
アリ往昔天竺はんぞく王ノ妃ノ神トナツテ人ヲ悩マシ大唐
ニテハ幽王ノ妃妲己ト成リテ国ヲ滅シ我朝ニ渡リテハ玉
藻ノ前ト現シ王家ヲ覆サントスル三国傳来ノ妖狐ナレバ
速カニ退治シ給ヘト申シ上奉ル山科殿ヲ召シテ玉藻ノ
御ヲ退ケタリシガ悪狐ハ夫ヨリ那須野ニ逃レテ害ヲナ
スヨリ上皇ケ三浦介両人ニ命ジテ之レヲ捕ヘシメ後悪狐ノ
怨念長ク殺生石ニ変リ人畜ヲ害シシヲ数年ノ後法
玄翁和尚之ヲ教化シ其功力ニヨリテ悪狐ハ脱得仏
ニ成ル事ヲ作ル

国立国会図書館　タイトル『たまもの前物語 2巻』 請求記号 858-76
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『たまもの前物語 2巻』 請求記号 858-76
ガラス使用